

斑点米カメムシ類情報第3号

令和8年8月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ミナミアオカメムシは多く、イネカメムシは概ね平年並
ほ場での発生に注意し、防除しましょう

1 発生状況

7月下旬の本田のすくい取り調査（47地点93ほ場）において、斑点米カメムシ類の平均捕獲数が1.85頭（平年3.00頭、前年4.42頭）で、やや少ない状況でした。また、畦畔雑草のすくい取り調査（44地点84ほ場）において、斑点米カメムシ類の平均捕獲数が4.50頭（平年5.82頭、前年7.77頭）で、平年並の状況でした。斑点米産出能力の高いミナミアオカメムシ及びイネカメムシは、畦畔雑草のすくい取り調査でやや多い状況でした（表1）。

県内5地点の予察灯における誘殺数（5月から7月第4半旬または第5半旬までの合計）は、大口町と弥富市で多い～やや多い、長久手市、西尾市、豊川市でやや少ない～少ない状況でした。特に、ミナミアオカメムシは大口町、弥富市、長久手市、西尾市で多い～やや多い、豊川市で平年並の状況であり、注意が必要です（図1）。イネカメムシは大口町でやや多い、その他4地点では平年並～少ない状況でした（図2）。

表1 斑点米カメムシ類の7月下旬調査結果（1ほ場あたりの平均捕獲虫数）

種類	本田すくい取り調査			畦畔すくい取り調査		
	発生量	本年	平年	発生量	本年	平年
ホソハリカメムシ	やや少	0.18	0.32	やや多	0.81	0.45
クモヘリカメムシ	並	0.26	0.35	並	0.23	0.24
シラホシカメムシ類	やや多	0.12	0.05	やや多	0.43	0.15
イネカメムシ	やや少	0.04	0.69	やや多	0.17	0.06
カスミカメ類	並	1.13	1.47	並	3.10	4.80
ホソナガカメムシ類	並	0.03	0.04	多	0.25	0.08
ミナミアオカメムシ	並	0.09	0.09	やや多	0.06	0.05
合計	やや少	1.85	3.00	並	4.50	5.82

（平年：平成28年～令和7年の平均値）

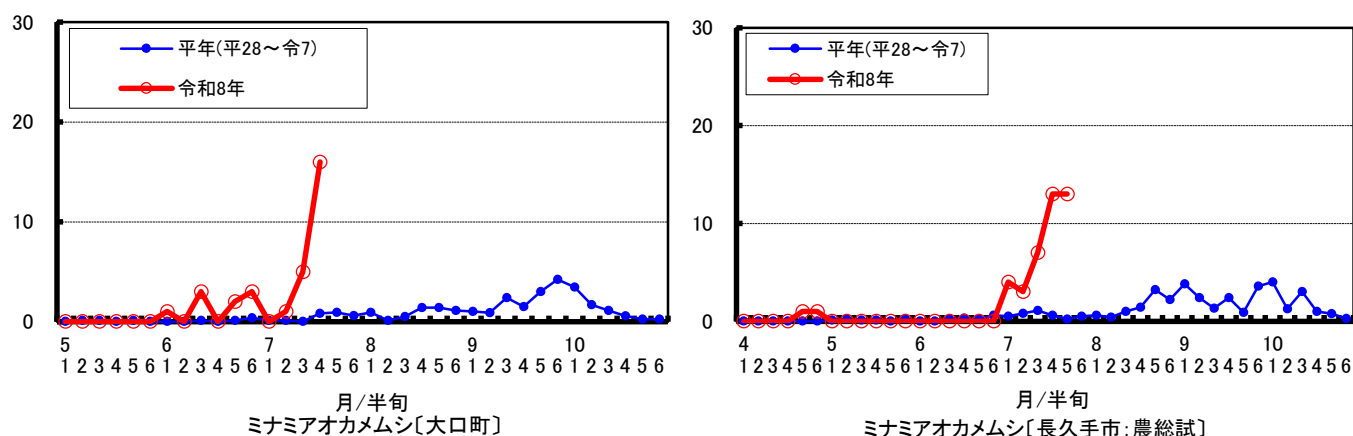


図1 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺状況（単位：頭）

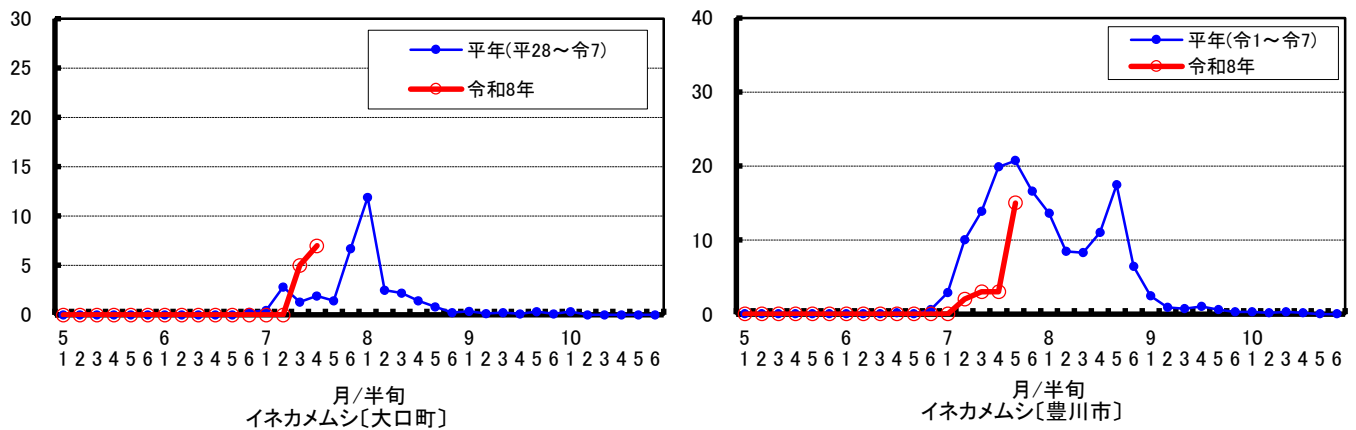


図2 予察灯におけるイネカメムシの誘殺状況（単位：頭）

2 防除対策

- (1) 地域やほ場によって発生状況が異なるため、発生している斑点米カメムシ類の種類に応じて薬剤防除を検討する。
- (2) イネカメムシ対策（不稔被害抑制）として出穂期（※）に薬剤防除する。また、イネカメムシ及び斑点米カメムシ類対策として出穂期防除の7日から14日後頃（イネカメムシの発生が多い場合は7日から10日後）に追加で薬剤防除する。
※出穂期：ほ場全体の4～5割の茎から穂の先端が出た日
- (3) 出穂期防除をしなかった場合、斑点米カメムシ類対策として出穂期の7日から10日後に薬剤防除する。さらに斑点米カメムシ類の発生が多い場合は、必要に応じて7日から10日後に追加で薬剤防除する。
- (4) 特定の農薬の連用を続けると、斑点米カメムシ類に対する農薬の感受性が低下する恐れがある。1回目防除と2回目以降の防除（追加防除）の薬剤のIRACコードが異なるように薬剤を選定する。
- (5) 一部の地域ではエチプロール水和剤（商品名：キラップフロアブル）でイネカメムシに対する感受性が低下している事例が生じていることから、防除薬剤の選定については地域の指導機関等に相談する。
- (6) 出穂2～3週間前までに、斑点米カメムシ類の発生源となる水田畦畔のイネ科雑草の除草を実施する。ただし、出穂直前の除草は本田にカメムシを追い込むおそれがあるため注意する。
- (7) 水田内で穂をつけたヒエ類及びイヌホタルイは、斑点米カメムシ類の発生を助長するので除去する。